

その他の政策実績 (一部)

教育・子育て	まちづくり	健康づくり・地域共生	防災・その他
少人数学級で 良い学びの環境づくり	創業支援施策の充実で 創業件数が大きく増加	女性の更年期障害 改善の取り組み	避難行動要支援者や外国人の 避難も想定した訓練の実施
小中学校の教室と体育館に 空調を完備	公益活動応援補助金で 市民活動を応援	補聴器やがん治療後 補助具の購入助成	泉大津フェニックスの 新たな土地に企業誘致(4社)
小中学校の大規模改修時に 地域交流ゾーンを順次設置	なぎさ公園に グランピングBBQ施設を誘致	在宅介護者への 訪問理美容サービス助成	災害時相互応援ネットワーク (全国22の市町)の連携を強化
タブレットを活用した 自学自習環境の充実	小松緑道下に スケートボードパークをオープン	無料もの忘れ健診、東京大学と 認知症改善の実証実験	コンビニでの 証明書発行を可能に
スポーツ選手や国際人財の 育成に対する経済的支援	市内スポーツ施設を 民間活力でリニューアル	学校、市役所、図書館の 女子トイレに生理用品を設置	行政手続きの オンライン化を推進
児童発達支援センターを開設	学校体育施設予約の オンライン化	あしゆびプロジェクトで 足の不具合や痛みを改善	高石市、忠岡町との 広域連携を開始
7か月児を対象に全家庭を訪問 5万円相当を支給	自転車用ヘルメットや 省エネ家電の購入助成	多世代が集える みんなの居場所づくりを開始	市長自ら動画を使って 積極的に情報発信
こども食堂などの こどもの居場所づくり拡大	市民主体で まちなかアートフェスを開催	コロナやワクチン後遺症 改善プログラムを毎月開催	市長報酬20%カット 退職金40%カットの継続

ごあいさつ

新たな年を迎え、市長に就任して早8年目に入りました。一期目(平成29年～令和2年)に構想し実現に向けて種まきをしてきた政策が、二期目に入り(令和3年～現在)、ようやく目に見える形として表れてきました。市民参加型のまちづくりと、民間企業との連携によって、まちが変化し動き出していることを実感して頂けていたら嬉しいです。

社会が激動変化する中においても、市民の暮らしや真の健康を守るため、そして暮らしの中に一つでも多くの笑顔を増やすため、今年も全身全霊で責務を全うする所存です。

泉大津市市長 2期目

南出けんいち

活動通信 令和6年1月発行 南出けんいち後援会事務局 泉大津市助松町2-6-21 minamideteam@gmail.com

みんなの力で
泉大津を前に！



市民の皆さんにお願いしたいこと

市長就任以来、市民の皆さんにご協力をお願いしたいこととして、「あいさつ、ごみ拾い、花や緑を増やす」の3つを挙げてきました。あいさつが行き交い、綺麗なまちは、住み心地がよくなるのはもちろん、犯罪リスクも低下します。例えば、自宅の前だけでもきれいにすることを皆さんが心がけてくれるだけで、まちの清潔さは断然良くなります。

<こんな参加方法もあります>

スポゴミ大会やピリカ：毎年、ゴミ拾いをチームで競う大会を開催したり、「ピリカ」というアプリを活用してごみ拾いの輪を広げています。

花と緑：自治会や企業等の団体が、みどりを増やすための活動に対して報奨金制度をつくり、活動団体を増やしています。これからもぜひよろしくお願いします。



能登半島地震、被災地支援

避難所生活での寒さやストレスから体調を崩し、亡くなる方が増えることが過去の震災経験からわかっています。そこで、1月2日には暖かい毛布をお届けし、断水地域への支援として、水を循環して再利用できる個室シャワー wota を発送。また、輪島市等へ職員の派遣もしています。困った時はお互い様の精神で支援を行いながら、本市における災害対応力の強化にもつなげる所存です。市民の皆さんも、今一度災害への備えをお願いします。

QRコード
泉大津市
災害に対する備え



南出 賢一

プロフィール

昭和54年 泉大津市生まれ。上條小学校、小津中学校、浪速高校、関西学院大学商学部卒。(株)ニチコ、(有)南出製粉所を経て、平成19年に泉大津市議会議員に初当選。平成23年・平成27年に再選し、泉大津市議会議員を3期務める。平成28年泉大津市長選で初当選。令和2年に再選し、現在2期目。林英臣政経塾関西4期生。

南出賢一 公式ホームページ
<https://mina-ken.net/>

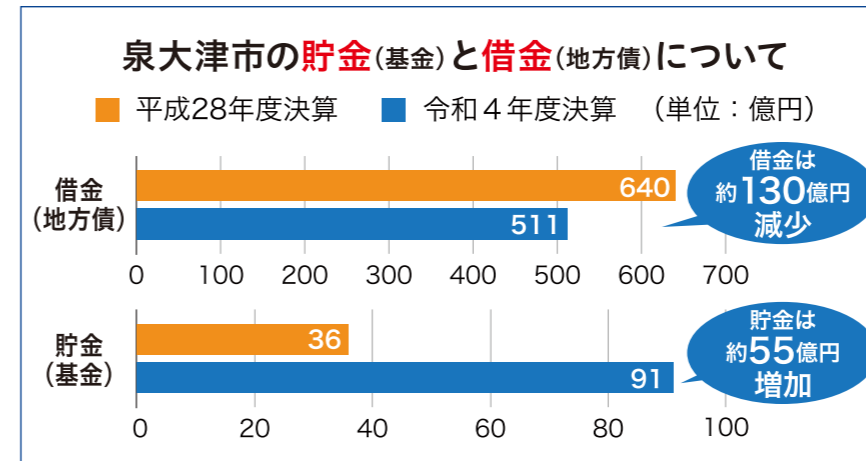
日々様々な情報を発信しています



未来に向けた財政改善

市の貯金の合計が、約36億円から約91億円へ増加

泉大津市は財政が悪いというイメージがあるかもしれませんが、財政の健全度を示す数値を大幅に改善し貯金も増やしました。例えば、市の貯金の合計は約36億円から約91億円に増加。その内、使い道の自由度が高い「財政調整基金」は約11億円から48億円に増加しました(市長に就任した平成28年度から令和4年度決算の推移)。他にも、1年間の予算の内、借金の比率を示す「実質公債費比率」が16.5%から8.7%に減少、将来負担すべき借金の割合を示す「将来負担率」は118.4%から6.1%に減少しました。市の借金とも言える「地方債」の残高は約640億円から511億円に減少し、約130億円改善しています。



財政改革への取り組み事例

- 泉大津駅地下駐車場の借金を清算
清算により市の長年の財政課題を克服。現在、民間委託化により収益とサービスのさらなる向上を目指す。
- 土地開発公社の清算
市長就任当時、27億円あった不良債務を清算してゼロに。
- ふるさと納税額と市税の増加
就任当時約1.4億円だったふるさと納税額が約6.6億円に増加。市税は、114億円(平成28年度)から119億円(令和4年度)に増加。
- 民間力の積極的な導入と事業の合理化を推進
連携協定数は大阪府下では大阪市に次いで2番目に！
など

課題・これからの泉大津

今後は、古くなった上下水道管の耐震化や公共施設の更新(建て替えや長寿命化、統廃合など)が押し寄せ、それらに係る財政負担が生じることが分かっており、それに耐えられる財政体質にする必要があります。そのため、誰も着手できなかった病院改革を実行するなど過去の負の部分の清算し、改善に取り組んできました。しかし、これで課題が無くなったわけではありません。何があっても皆さんの暮らしを守る決意の下、引き続き改革を進めます。

2期目の政策実績50

教育・子育て

新図書館「シープラ」来館72万人！

令和3年9月、泉大津駅前商業施設「アルザタウン」の4階にオープン。年間400本のイベントを開催し、開館から2年で72万人の来館者を記録。夕方や休日になると500席がいっぱいになることも。読書や学習環境の整備はもちろん、ビジネス支援サービスやレンタル会議室、Wi-Fi環境も充実。さらに、音・香り・緑で心身を整えるリフレッシュコーナーを設置するなどの先端技術も取り入れ、まち全体の教育や文化力の向上を目指して進化を続けている。



駅前商業施設に子育て支援拠点を開設

アルザタウン6階に「いずみおつアルザ子育て支援センター」を開設。親子広場や一時預かりを実施。小規模保育事業所も併設。保護者をサポートし、より子育てしやすいまちへ。

全国初の給食改革～発達を食から支える～

令和元年度から市立中学校に給食を導入。さらに現在は、就学前施設から小中学校まで、農業使用量の少ない特別栽培米や有機米を使い、栄養価の高い金芽米加工をして提供。加えて、月に2回、小中学校では行事食や旬の食材等を取り入れた「ときめき給食」を実施。令和7年度中に中学校給食の自校調理実現を目指す。子どもの健康を第一に考えて、まずは保護者負担を増やすことなく食材の品質向上に舵を切り、給食費の無償化の実現に向けては今後段階的に取り組む。



全国初！ マタニティ応援プロジェクト

市内在住の妊婦さんのご家族に金芽米10kgを、出産月まで毎月配布(要申請)。東洋ライス株式会社の協賛により、市の財源負担なしで実現。

まちづくり

旧市民会館跡地に新しい公園「シーパspark」がオープン！

旧市民会館跡地の有効活用について市長就任当初からビジョンを掲げ、交流が生まれる場所、市民活動が盛んに行われ誰もが安心して楽しめる場所、緑豊かな癒しの空間にすることを目指してきた。公園開設にあたっては市民参加型のワークショップが繰り返し行われ、多くの市民さんに知恵を出して頂いた。その甲斐あって、令和5年7月のオープニングイベントは来場者が1万人超え。今夏頃には全国的に人気の高いレストランがオープン予定。

これからも多くの市民に愛される公園を目指し、シーパsparkがあることでまちの魅力が高まり、泉大津市に住みたいと思ってくれる人が増えるようにしたい。



市制施行80周年をにぎやかに

市では13件のシンボル事業を主催し、だんじりパレード(約30,000人が参加)や泉大津フェニックスにぎわいフェスティバル(約13,000人が参加)をはじめ、各地でにぎわいが見られた。また、市民提案記念事業も計13件実施、のべ約15,350人の参加があり、泉大津市の可能性を大いに感じた。



泉大津商工業振興ビジョン

泉大津市が将来にわたり持続的に発展するため、商工業、観光など、各産業分野の中長期的視点による目指すべき姿を描くとともに、重点的に取り組む施策を示すための新たなビジョンを策定する。学識経験者、商工団体、市内事業者、市民等からなる策定委員会を設置し、7回にわたり検討を行う。

健康づくり・地域共生

泉大津急性期メディカルセンターが令和6年12月に開院

令和6年12月に泉大津急性期メディカルセンター(公設民営)が開院し、急病救急の機能を飛躍的に向上、感染症や災害医療も強化。現在の市立病院は、周産期小児医療センター(公設公営)へ。府中病院(民営)は慢性期や回復期医療を提供。安心して通えるように、それぞれの病院への交通手段も整備。

泉大津市立病院と府中病院の機能を再編・統合することで質の高い医療を提供し、市民の命を真に守る体制を整えると同時に、20年以上続いた赤字体質を持続可能な経営へと転換。

詳しくは特設サイトからご覧いただけます
<https://www.seichokai.or.jp/ozumc/opening/>



※写真はイメージ

安全・安心な食糧の 安定的確保に関する構想

いかなる時も安心して食べられる安全な食料が手に入る環境を築いておくため、農作物の生産地である以下の自治体と連携協定を締結。

日本の低い食料自給率・高齢化による農業の担い手不足・世界的な食料問題を鑑み、農地面積が少なく(市全体の3%程度)食料の生産を他の地域に頼らざるを得ない本市において、市民の命と健康を守るために市独自の食料流通網の構築を目指す。

連携協定締結自治体

(令和5年度)北海道旭川市、長野県南箕輪村、滋賀県東近江市、和歌山県橋本市、和歌山県日高川町、熊本県人吉市、沖縄県石垣市



防災

女性目線の防災対策

浸水想定地域にお住まいの世帯に妊婦さんがいる場合、ご家族で市内ホテルに宿泊避難できる制度を創設(全国初)し、実際に宿泊して防災知識を学ぶ体験会を実施。また、防災対策を女性の視点で改善し、避難所でも安心して過ごせるような環境の整備や、防災リーダーの育成にも力を入れています。

健康づくり推進条例の制定

病気の診断や治療の多くは保険が適用されるのに比べ、病気の予防や健康増進のための選択肢は少なく、経済的負担が大きい現状がある。

そこで、一人ひとりの健康状態を見える化できる環境をつくり、その上で多様な健康増進のためのサービスを受けられる機会をつくる。そして、現代医学や伝統医学など多様な選択肢を増やす。

市民一人ひとりの健康状態が向上し、少しでも元気に健康に過ごしてもらえるように、これらの取り組みを官民連携、市民共創によって全国に先駆けて取り組みをスタートさせた。



手話言語条例の制定

令和5年4月1日に手話言語条例が施行。遠隔手話通訳サービスの導入や、手話の体験講座、手話奉仕員養成講座等も実施し、誰もが安心して暮らせるまちへの着実な一歩にしたいと考えている。



車椅子やベビーカーも入りやすく

障がいをお持ちの方、歩行に不安のある方、ベビーカーを使っている子育て世代の方等、誰もが気軽に色々なお店に通いやすくするため、バリアフリー化(車椅子用のスロープや手すり設置)等に係る費用を助成

避難所運営を進化

避難所内にテントを設置して避難者のプライバシーを確保、そしてテントの中には簡易ベッドを設置、冷え対策に泉大津市産の毛布を活用。さらに、保健師による体調確認、ホットアイマスクや全身ふき取りシートの配布を行うなど、体調やプライバシーに配慮した避難所運営へと進化させている。